

シリーズで学ぶ！新人職員のための基礎知識

講師：山内 哲也
(社会福祉法人武蔵野会 リアン文京 総合施設長)

Step5

「ケース記録ってどう書けばいいの？」

1

講義のポイント

今回の講義のポイントは・・・

- ① 記録の役割について
- ② 何を書くのかのという目的意識
- ③ 支援過程と記録
- ④ F-SOAIIP
- ⑤ よいケース記録を書くためのツボ

・・・となっています。

2

ケース記録の書き方 あるある

<ul style="list-style-type: none"> ● どう書いてよいかわからない ● やたら、だらだら、書いてある ● 結論がない ● 利用者の様子だけ支援内容なし ● 事実関係がわからない ● 必要情報が抜けている ● 何を書いてよいかわからない ● 何が書いてあるかわからない ● 誤字脱字が多い 	<ul style="list-style-type: none"> ● 記録が活用されない ● 字がきたなくて読めない ● 言葉が難しすぎてわからない ● 曖昧な表現が多い ● 似たり寄ったりの記述 ● 支援計画の課題と連動していない ● 記録を書く時間が取れない ● 記録を書かないで業務が終了する ● とにかく書くのが苦痛
---	---

3

記録の役割

- 記録をチームケアに活かす：情報を共有して、統一した支援
- 多職種連携のツール
- 支援の継続：支援のボタン（データ蓄積）、比較検討の材料
- 支援行為・実績の証明
- コンプライアンス（整備・保存）
- 信頼関係の構築（家族・利用者・職員他とのコミュニケーション）
- リスク管理、法的な証拠
- 自分たちの支援の成果を見える化
- 支援過程の展開（アセスメント・計画・実行・モニタリング）
- 専門的思考過程（専門性）とその育成
- 自分たちの支援を根拠をもって説明する（アカウンタビリティ）
- 利用者の生活の軌跡

4

経験や勘に頼らない専門的支援

利用者のWell-being実現するために、福祉の倫理や価値・法的規則に基づき、理論やモデル及び法的な手続きを踏まえた、卓越した知識と熟練したスキルによって、根拠のある支援実践を行うことが必要である。そのためには、実践における省察（振り返り）と言語化（説明）が重要であり、自らの実践の説明責任（アカウントビリティ）を果たす役割がある。

書くこと = 意識して考える

5

何を書くのかという目的意識

- | | |
|--------------|--------------------------------------|
| ① 支援しながら観察する | 情報を得る
ポイントとバックグラウンド意識する |
| ② 観察しながら省察する | 具体的行為の意味を浮き彫りにする |
| ③ 客観的事実を記録する | 数量などの数値
事実と推測はわかる
所感申し継ぎノート |
| ④ 具体的に書く | 曖昧な表現NG
5W1H
人と環境の構造や場面の文脈 |
| ⑤ わかりやすく書く | 1文章に1つの意味。主語述語。
見出し。受動態でなく能動態。過去形 |

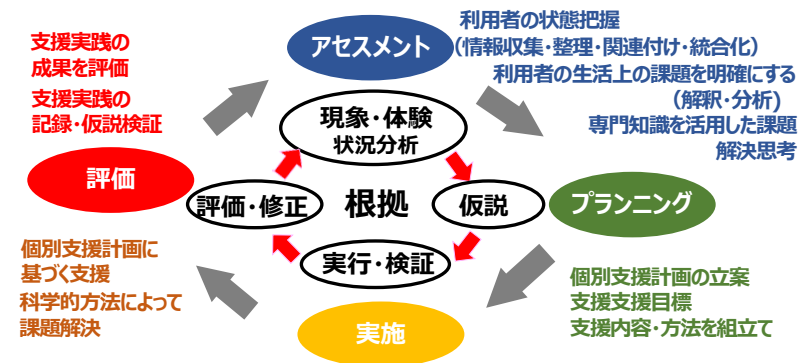
6

何を書くのかという目的意識 つづき

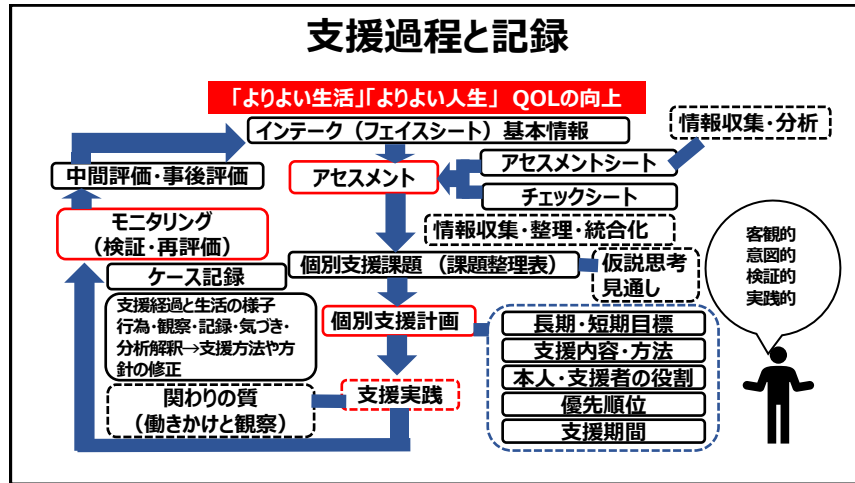
- | | |
|-----------------|---|
| ⑥ プロセスを書く | 支援行為と反応
何が・どうしたら・どうなった
「状態」だけでなく、動きのある文章
対応と処置
その後の反応 |
| ⑦ 根拠を書く | 支援行為の目的と理由
何故そうしたのか。
気づき→根拠→行為 |
| ⑧ PDCAサイクル | P(課題)とD(実施)を連結
ステップバイステップの短期目標を設定 |
| ⑨ ポジティブストレングス視点 | (していること・できていること) |

7

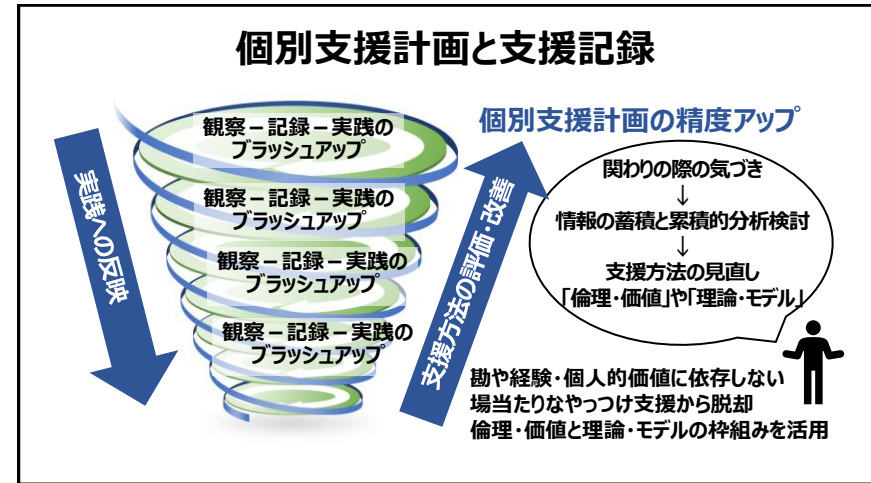
思考過程と記録 ～日常から人生レベルまで～



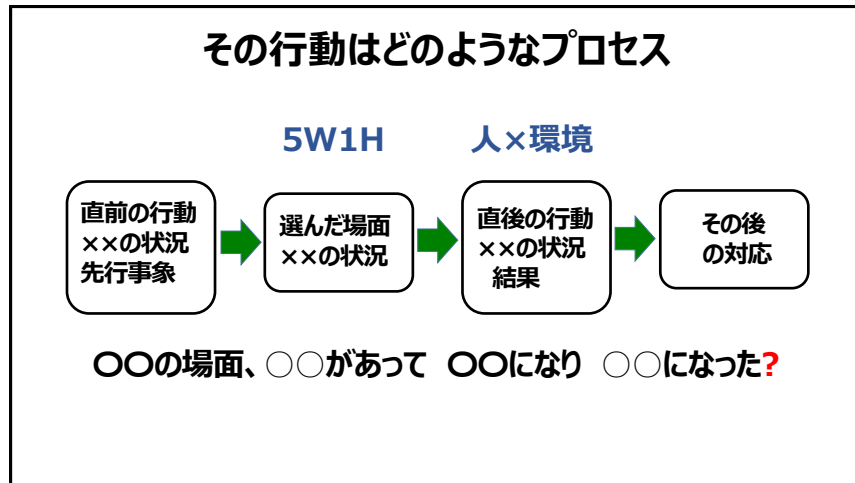
8



9



10



11

利用者が食事をしている場面の記録	叙述記録
<悪い例> 「朝食時、食欲がなく、食べ物を遊んでいた。声かけて半分摂取」	
<良い例> 「朝食時、食堂で、利用者Aさんが、いつもだと味噌汁を飲んでから、おかずを食べ始めるのだが、箸でおかずをつつだけで、はじめの一口がなかなか運ばず、3分ぐらいの間、じっと正面を見つめていた（ 利用者の様子 ）。『食欲ないんですか』と声をかけると（ 職員の対応 ）、はっとした様子で箸を取り直し、食べ始めるが半分程度で箸をおいてしまう。結局、半量ご飯とおかずを残す（ 利用者の対応 ）。その間、『もう少し食べませんか』の職員の促しにも（ 職員の対応 ）、『うん』と応えるだけで、食べようとしなかった（ 利用者の対応 ）。てんかんのある方なので、欠神発作のような短い意識消失の可能性を考え（ 判断 ）、看護師と業務日誌への引継ぎを行い（ 対応 ）、食事場面での観察の強化を提案した（ 支援の修正 ）。	

12

F-SOAIP		項目形式
着眼点	Focus	ニーズ、気がかりな点、個別支援計画の課題・目標と連動、生活場面を切り取りタイトルをつける
主観的情報	Subjective	利用者自身の行動、要望、相談
客観的情報	Objective	支援者が観察した利用者の様子、その結果できごと・検査データ・具体的状況など
判断 (分析・評価)	Assessment	SやOの情報 (過去の情報も含めて) から分析、自分の判断と根拠
介入・実施	Intervention	支援者の対応、支援・介助・声掛け・連絡・環境調整
計画	Plan	Aの当面の対応予定、働きかけの方針・方法

生活支援記録法 島末憲子・小嶋章吾

13

利用者名 A 記録者(支援者) G	
Focus	体調不良による午後の早退
Subjective	・昼食後、13時40分、相談室に来て、早退したいと申し出る ・理由を尋ねると「頭が痛い」「お腹もいたい」とのこと
Objective	・口元をぐっと結んだ固い表情。寄り支度をして相談室に現れた ・午前中は作業に集中していた。昼食時までは機嫌よ他の利用者と同様に笑顔で談笑 ・職員Yより、昼食後にトイレで、Bに対して「トイレからいつも出てこない」と誰ともなく周囲にむけて、普段より興奮気味に大声で文句を言っていた
Assessment	・平熱36.7℃ 食事は全量摂る。午前中の箱折作業はスムーズに150個達成 ・体調不良を訴え早退を申し出ているが、早退を申し出る直近までは身体の不調は見られなかった。笑顔や仲間との会話も弾んでいた ・職員Yの報告と類似する報告が過去にもあり、体調不良の原因かもしれない
Intervention	・本人の意向を確認し、早退してもらう ・家族に電話連絡して母親に経過を説明、Aの様子観察、及び、必要があれば医療機関への受診を依頼
Plan	・職員Yの報告と類似する事例の有無をケース記録からGが確認する ・Aを取り巻く利用者間の交流の様子を経過観察することを夕礼で引き継ぐ ・サービス管理責任者とグループリーダーに報告する

14

よいケース記録を書くためのツボ

- ①書くテーマと、記録に残す場面を決める
- ②何を観察ポイントにするのかを決める
- ③メモをとる。とったメモから情報を補足する
- ④情報共有はチームケアの要。記録は組織の情報財産
- ⑤書く時間、協働のための役割分担、どんな記録が喜ぶ？
- ⑥他者の書いた記録をクリティカル（分析・検討）に読む
- ⑦実践・観察・省察・記録を意識する（自己研鑽）
- ⑧ツールを活用する

15

締めの一と言

記録とは
活用される情報を提供し、「わかる・伝わる・つなげる」として
支援の根拠を言語化すること
支援の説明責任を果たすこと

良い記録を書くには
練習あるのみ。意識して書く（考える）ことの積み重ね

16

今回の課題

- 支援してきた中で印象的だったことを思い出し、整理してみましょう

○○○○○○○○の場面、

○○○○○○○○があって、

○○○○○○○○になり、

○○○○○○○○になった。